

ぼうさい みくまじろ



No.2

H29. 7.20 発行

みくまの支援学校
育友会 防災研修部

高等部防災教室（出前授業）

6月22日（木）に日本防災士会本部理事・和歌山県支部長の早稲田眞廣氏をお招きして、生徒を対象とした防災教室（出前授業）が開かれました。育友会からも防災研修会として参加しました。

今回の授業では次の3点について学習しました。

- ①災害が起こる前の備えについて知る。
- ②災害が起こったときにみんなで協力して行くことの大切さを理解する。
- ③身近な物を使って手軽にできる防災グッズの作り方を知る。



防災教室では、はじめに東日本大震災の時の各地の映像を見ました。建物の外でガラスが割れ落ちたり、壁がはがれ落ちたり、地割れが起こったり等の映像を見ました。

揺れも長く続いた時には、落下物等から「頭を守る」ことが大事であると教えていただきました。

次に「釜石の奇跡」で有名な実話をアニメ化した映像を見ました。

ここでも①地震で倒れたり落ちてくる物から身を守ること②津波から身を守ることが大事であることを教えていただきました。また以下のような様々な場所での対処方法についても学びました。

様々な場面を想定した対処方法

家屋内

1. ドアや窓を開ける。（逃げ道の確保）
2. テーブル等の下に隠れその足をしっかり握る。（座布団等を頭にかぶる）
3. 余震が落ち着いたら、ガス、ストーブ等の火気スイッチを切る。（この時元栓もしめる）
4. 電気のブレーカーも遮断する。
5. 防災頭巾や座布団をかぶり、一時避難所に移動する。（落下物や倒壊に注意）

就寝中



1. 枕元に靴等を置いておく。
2. 地震が来たら、先ずは布団にもぐる。（身の安全の確保）
3. 余震が落ち着いたら靴を履いて枕等で頭をおおって外に出る。

買い物中

1. 買い物かごを頭にかぶる。
(出口に殺到するのは危険)
2. 陳列棚等の倒壊の危険性のある物から離れ、広い場所に待機する。
3. 余震が落ち着いたら買い物かごをかぶったまま外に出て一時避難所に移動する。

映画館

1. 椅子の下に隠れる。
 2. 余震が落ち着いたら非常口に向かって落ち着いて移動する。
 3. 係員の指示に従って外に出る。
- ☆エレベーターは絶対に使わない。

競技場 野球場

1. 比較的安全な場所なのであてない。
(出口は殺到するので危険)
2. グラウンド中央に移動する。
3. 余震が落ち着いたら、鞆や帽子などをかぶり、一時避難所に移動する。

高い建物

1. 玄関のドアを開け非常口を確保する。
2. エレベーターは絶対に使わない。
(閉じ込められたり、煙や火の通り道となり危険)
3. 非常階段を使って避難する。
4. エレベーターに乗っているときに地震に遭遇したら全部の階のボタンを押し、停止した階で降りる。

外出中

1. 頭にバッグ等のクッションとなるものをかぶる。
2. 倒壊の危険がある場所を避け、広い空間に移動する。(その場にうずくまることは、かえって危険)
3. 余震が落ち着いたら、一時避難場所に移動する。

避難するときの服装

1. ヘルメット又は防災頭巾をかぶる。
 2. 長袖、長ズボン着用。燃えにくい木綿製が良い。
 3. 非常持出品は、最小限にしてリュックで背負う。
 4. 軍手や手袋をはめる。
 5. 靴は、底が厚くはきなれたものを履く。
- ☆基本的には両手を使えるようにする。

空き缶を利用したガスコンロの作り方を教えていただきました。

ガスコンロの作り方

- ① 空き缶を下から5 cmくらいのところから二つに切る。
- ② ティッシュでコヨリ(少し堅めで5 cmくらい)を作る。
- ③ アルミホイル(空き缶の内側1周するくらい)に差し込みの切れ目を入れる。
- ④ ③のアルミホイルに②のコヨリを4~5本差す。
- ⑤ ④を空き缶の内側に入れる。
- ⑥ ⑤に植物油(サラダオイル)を入れる。
- ⑦ ⑥のコヨリに油がしみてきたら火をつける。
- ⑧ ⑦を3つあわせる。その回りに①の残りの空き缶を並べる。

